

第5回沖縄国際映画祭開催！
地域の魅力を発信します

今年、第5回目を迎える沖縄国際映画祭の実行委員会委員長 吉本興業株式会社
代表取締役社長 大崎 洋氏に、今後のビジネス展開や沖縄国際映画祭
についてお話を伺いました。

日本の良さを分かち合える
企業にしたい。

弊社は、日本経済が右肩上がりの時代、テレビがメディアの主流という中で、所属しているタレントとともに成長してきた企業です。昨年、創立100年という節目を迎え、次の100年をどのように展開していくかと考えたとき、所属するタレントも含め社員一同が、「日本の良さ」を肌で感じ、分かち合える企業にしたいと思いました。

「日本の良さ」は世界的にも注目されておられ、そのグローバル化が重要視されています。しかし、グローバルを考えたとき、いきなり世界があるのではなく、地域の向こうにグローバルがあるのだと思うんです。ですから、地域の良さを再認識することはとても大事なことです。日本が最も誇れるのはアニメやゲームそのものではなく、それらの基盤となる日本の文化にあるのだと思います。

日本の文化の素晴らしさは、日本人の暮らしぶり、多くを求めずにやりくりをする生活そのものや、沖縄で言えば「ゆいまーる」に通じる分かち合いや助け合いの精神の延長線上にあるのだと思います。

ビジネスプランのキーワード
「地域」「アジア」「デジタル」

今後の弊社の具体的な取組として、「地域」「アジア」「デジタル」をキーワードと考えています。

「地域」での取組としては、「創立100周年記念プロジェクト」の一環として、「あなたの街に住みますプロジェクト」に取り組んでいます。全国47都道府県に若手の芸人やエリア担当社員を住ませ、「笑いを通じて社会貢献」を掲げ、地域のローカル番組の作成、地域の観光大使、漫才を教材にしたコミュニケーション研修、地域資源を活用した特産品開発等のいろいろな取組を実施して

います。

また、大阪の難波千日前に「よしもと47ご当地市場」をオープンし、地域の特産品を販売しています。今年の夏には台湾の金門島のショッピンゲセンター「風獅爺（フーシューイー）」で日本47都道府県の特産品を集めた物産展を企画しており、日本企業へのテナントシーリングを展開することになっています。

地域の特産品をデジタルと絡めると、国内だけではなくアジア展開も進めやすいのではないかと考えています。現在、台湾で「吉本東風」という番組を持っており、その中で地域の特産品等の情報を発信し、アジア展開を進めるということにチャレンジしています。

キーワードの一つを「アジア」としたのは、アジアの国々が一つにまとまることによって、ヨーロッパやアメリカと同様なブランドを構築できるのではという期待からです。弊社の企画制作力やメディア力を駆使し、



大崎社長

日本の魅力やブランドだけではなく、クールアジアとしてアジア全体の良さを発信していきたいと考えています。アジアの企業との取引は、やはり日本国内での取引とは異なりますし、人種が違うということを実感する場面も度々あります。アジア展開では社内の中国人スタッフが活躍していますが、つくづく人材と人的ネットワークの重要性を実感しています。

沖縄国際映画祭で地域間交流を！

2009年から、「L A U G H & P E A C E」をコンセプトとして開催されてきた沖縄国際映画祭も、今年が第5回目を迎えます。過去4回、

吉本興業株式会社
代表取締役社長 大崎 洋

沖縄で開催して印象的なのは、子供やお年寄りの笑顔です。昨年はアジアを含め諸外国から参加いただいたプレスも多くいらっしゃいました。沖縄は、リゾート地として知られているので、プレスの方が喜んで参加されるようです。

毎年多くの県内ボランティアが参加し、映画祭を盛り上げてくれていますが、今年はさらに「沖縄国際映画祭のわん応援団」が発足し、宜野湾市や市の観光振興協会の強力なサポートを頂いております。



国際映画祭除幕式

沖縄国際映画祭では、地元CMや地域映画の制作に取り組んでいます。もともと、おらが村、おらが町の自

慢の名産、名物、名勝、名人、民話等を盛り込んだ映像を制作し、地域間の交流に利用してもらいたいという思いでスタートさせました。それは地域の観光を促進させるだけではなく、地域間のネットワークがアジアまで次々に広がっていくということを期待しています。新たなネットワークは新たなマーケットを生み出すのではないのでしょうか。

「モノ」が売れるには、サービスも含めどう加工するかということも大事だと思っています。また、これからのビジネスは、組み合わせのアイデア勝負です。例えば、「ガールズコレクション」は、ファッションショーのライブとeコマース（インターネットなどを利用した商取引）の組み合わせが効果的なビジネスになりました。

例えば、沖縄の組踊りやエイサー等の伝統芸能は、沖縄の若い人たちがしっかり継承しており素晴らしいと思います。それをどのように再演出して新しい現代のショーとして見せるかという視点も大事です。日本の伝統芸能にブロードウェイの演出家を迎えるということもやっつかなければ、中国などのアジア諸国にかなわないと思うのです。

今回の沖縄国際映画祭の見所は「JMOT CM COMPETITION」各地域の名所、名物、名人等をCMにして紹介する企画を公募



第五回 沖縄国際映画祭
5th OKINAWA INTERNATIONAL MOVIE FESTIVAL
2013.03.23(土)~03.30(土) | www.oimf.jp

第5回沖縄国際映画祭メインポスター

那覇市在住の金城 拓さんの作品。デザインは、「シーサー」「ミルク神」「ブタ」「マンガース」「ヤギ」「キジムナー」「ジンバイザメ」「ヤンバルクイナ」といった沖縄にまつわるキャラクターが笑顔で円になり、笑いの力で平和を広げていくという世界観が表現されています。

したところ、全国46都道府県と沖縄41市町村からアイデアが寄せられ、現在各地のCM制作中です。その中から、映画祭期間中にグランプリを発表し、賞の授与などを行います。また、エンターテイメント・ビジネス構想を沖縄でできないかという提案をしています。今は存在しないような職業を自ら創り出して、そのために必要な知識を得るための学校が構想の中心になります。エンターテイメントを柱とする行政体のようなものを創ろうという構想案です。沖縄で、アジアの人材も含めた育成や交流事業ができるといいですね。

◆インタビュアーの感想

地域にスポットを当て、デジタルを活用しながらアジア展開に取り組む

第5回 沖縄国際映画祭

期間

2013年
3月23日(土)~3月30日(土)

会場

沖縄コンベンションセンター及び周辺地区(宜野湾市)、桜坂劇場及び国際通り周辺(那覇市)、北谷町及び沖縄県内各所
HP アドレス : www.oimf.jp

という大崎社長のお話は、日本各地とアジアがつながる手法として期待感が持てます。沖縄でも新たな取組に積極的に挑んでいくことで、新しい産業が生まれるのではないかと感じました。